

Kansai Nikikai Opera

Oct.2021



関西二期会 第92回オペラ公演『カヴァレリア・ルスティカーナ』『パリアッチ(道化師)』(2020年)撮影:早川壽雄

Contents

- 2.3 『オテッロ』 作品解説
- 4.5 指揮者・演出家が描く『オテッロ』
- 6.7.8 ヴェルディの最高傑作を表現するオペラ歌手たち
西口浩二 / 小餅谷哲男 / 福田祥子 / 畑友実子 / 細川勝 / 米田哲二
- 9 コンサートレビュー
関西二期会第92回オペラ公演
『カヴァレリア・ルスティカーナ』『パリアッチ(道化師)』
- 10 谷やんの企画・制作デイリーライフ
- 11 オペラ座の凡人 / 賛助会員
- 12 受賞のお知らせ / 新人会員の紹介 / コンサートスケジュール

OTELLO オテッロ



ヴェルディの円熟の音楽が描く英雄の内面の崩壊！
音楽とドラマが一体になったイタリア・オペラの金字塔

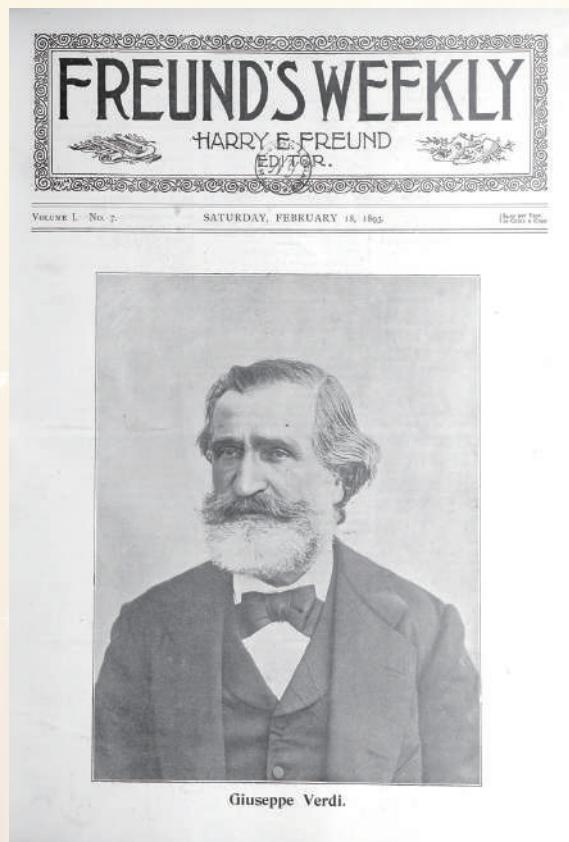
「ヴェルディ的なもの」が極まった作品

『オテッロ』(1887年初演)は、ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)の数あるオペラの中でも飛び抜けて完成度の高い作品である。筆者はヴェルディの「追っかけ」を自認?しており、特に海外にオペラ鑑賞に行く際には可能な限りヴェルディのオペラを見るようにしてきたが、『オテッロ』は「打ちのめされる」経験ができる確率がとても高いオペラだ。開幕と同時に椅子に叩きつけられるような衝撃を受け、そのまま音楽に飲み込まれて幕切れまで翻弄され続けたことも何度もある。『オテッロ』では、ドラマと音楽が一分の隙もなく合体しているのだ。それも、徹底してヴェルディ流のやり方で。『オテッロ』は、「ヴェルディ的なもの」が極まった作品だと言つていい。

人間の心理を、雄弁な音楽で掘り下げる

ヴェルディは、男性的な作曲家である。イタリア・オペラのもう一人の人気作曲家、ジャコモ・プッチーニと比較してみるとよくわかる。ヴェルディの全26作のオペラでヒロインをタイトルにしたものは《椿姫》《アイーダ》など5作しかなく、他はほとんど男性主役がタイトルだが、プッチーニは12作のオペラ中男性主役がタイトルの作品は2作しかない。音楽もヴェルディは簡潔で無駄が多く、劇的だが、プッチーニは甘美で、雰囲気を大事にする。画家に例えるなら、ヴェルディはミケランジェロでプッチーニはルノワール。ヴェルディは人間の心理を力強く雄弁な音楽で掘り下げるに情熱を傾けた。鋭い筆で人間を彫琢したミケランジェロのように。

そんなヴェルディが心酔した作家がシェイクスピアだった。バイロンやユゴーといった当時の人気作家にも傾倒したが、バイロンやユゴーの作品には「劇的效果」



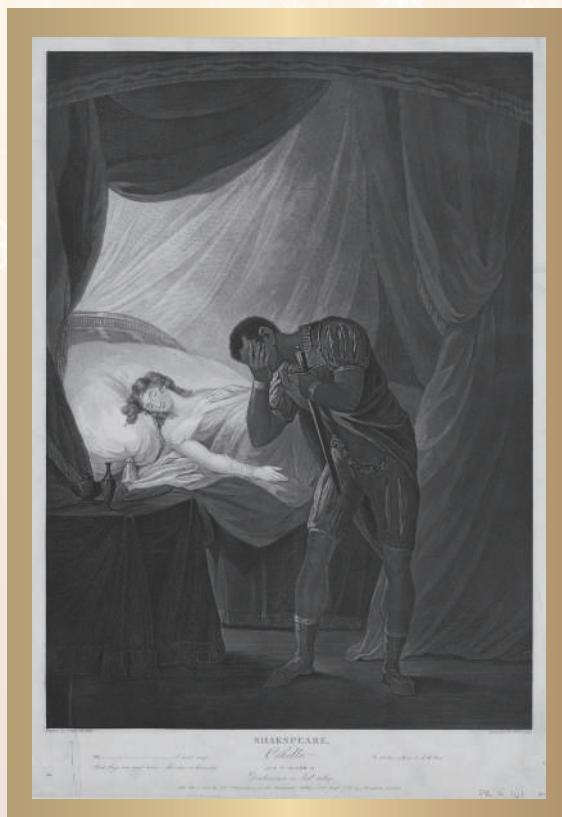
1893年、米音楽誌『Freund's weekly』に掲載されたヴェルディ

を見出したのに対し、シェイクスピアではそこに描かれた「人間の心」に魅了された。若い頃はシェイクスピアの全戯曲をオペラ化することを夢見たが、最終的に曲づけしたのは《マクベス》(1847年初演)、《オテッロ》、《ファルスタッフ》(1893年初演)の3作にとどまった。3作に共通するのは、他のヴェルディ・オペラよりも音楽とドラマが密着していることだ。特に晩年に書かれた《オテッロ》と《ファルスタッフ》は、イタリア・オペラに伝統的だった「番号オペラ(=全体がいくつもの「曲」に分割されているオペラ)」の形式をやめて全体を途切れなく作

曲したこともあって、ドラマと音楽は完璧に融合している。〈乾杯の歌〉や〈凱旋行進曲〉のようなヒットメロディはここにはない。音楽はただただドラマに奉仕し、一気呵成に突き進む。ヴェルディは『オテッロ』で、眞のドラマティストになった。

シェイクスピアの四大悲劇のひとつ

『オテッロ』は、シェイクスピアの四大悲劇のひとつ『オセロー』に基づいている。ヴェネツィア共和国に仕えるムーア人(黒人)の将軍オテッロが部下のイヤーゴの奸計にはまり、若く美しい白人の妻デズデーモナが不倫をしたと信じ込んで彼女を殺してしまう悲劇だ。貫して描かれるのは、武人オテッロの内面の崩壊である。その背景には黒人ゆえの劣等感もあり、デズデーモナへの盲愛もある。愚かといえば愚かだが、あまりにも人間的だ。実際、「オテッロの気持ちがわかる」と言う男性は少なくない。『オテッロ』はとても普遍的で、人間的なオペラなのだ。



最愛の妻デズデーモナを殺してしまうオテッロ

聴きどころは多い。冒頭でオテッロは、嵐の中でトルコ軍を沈め、英雄として帰還する。第一幕の最後に置かれたデスデーモナとの二重唱は、ヴェルディが書いたもっとも長大でもっとも美しい愛の二重唱だ。だが幸せな時は一瞬で、第二幕以降純粋なオテッロは狡猾なイアゴに翻弄されていく。第二幕冒頭でイアゴが歌う〈クレード〉は、イアゴの悪魔的な面をあぶり出す。第三幕では、半狂乱になって失神したオテッロの頭をイアゴが踏みつける劇的な幕切れが待っている。最後の幕は極めて完成度が高く、死を予感したデスデーモナの〈柳の歌～アヴェ・マリア〉から全てを悟ったオテッロが自害する〈オテッロの死〉まで、心を揺さぶられる場面が続く。

指揮にグイード・マリア・グイーダ、演出にパオロ・パニッツァとイタリアの2大マエストロを迎える。関西二期会の精鋭陣で贈る『オテッロ』は、関西二期会の再開にふさわしい公演だ。不朽の名作による関西二期会の再出発を、ぜひ見届けていただきたい。

(加藤浩子)

公演情報

『オテッロ』

<全4幕 イタリア語上演・字幕付>

指揮：Guido Maria Guida (グイード・マリア・グイーダ)
演出：Paolo Panizza (パオロ・パニッツァ)
管弦楽：大阪交響楽団

公演日程：2021年11月27日（土）16:00 開演
2021年11月28日（日）14:00 開演

公演会場：メイシアター 吹田市文化会館大ホール

11/27（土）	11/28（日）
西口 浩二	オテッロ
福田 祥子	デズデーモナ
細川 勝	イヤーゴ
八百川 敏幸	カッシオ
森 理奈	エミーリア
しまふく 羊太	ロデリーゴ
片桐 直樹	ロドヴィーコ
萩原 泰介	モンターノ
	小畠谷 哲男
	畠 友実子
	米田 哲二
	藤田 大輔
	岸畑 真由子
	山本 欽也
	武久 龍也
	神田 行雄

お問い合わせ

関西二期会チケットセンター 06-6360-4651

指揮者・演出家が描く『オテッロ』

ヴェルディの『オテッロ』はオペラ史上の最高傑作である。指揮者のグイード・マリア・グイーダ氏と演出家のパオロ・パニッツァ氏にこの大作の魅力と取り組みを聞いた。

破滅と死への欲望へ

ヴェネツィアの将軍オテッロは、部下のイヤーゴにそそのかされて、妻デスデーモナの貞淑を疑い、嫉妬で怒り狂い、遂には妻を殺してしまう。グイーダ氏はこのオペラのドラマティックな表現にこだわりたいと言う。「特にヴェルディが見事に描写した登場人物の心の葛藤を音楽に反映させたいと思います」。例えば、オテッロの妻デスデーモナについて「彼女は死の瞬間に犯人を問われ、『私自身よ』とオテッロをかばう。自らが犠牲となり、怒り狂う夫を悲劇から救い出したかった。デスデーモナの愛、自己犠牲、魂の寛大さを証明する場面だと思います。また第1幕の唯一の愛の二重唱でも彼女の無限の愛、死を超える愛の深さが表現されています」と語る。

またオテッロの音楽にも独自のドラマがあるという。「オテッロのデスデーモナへの計り知れない愛は、衝動的に死へと導きます。妻殺害は嫉妬心の盲目だけが原因ではなく、彼の自己破壊欲が招いた殺人なのです」。グイーダ氏は、それを説明するために第2幕のオテッロのアリアをとりあげる。「この曲は、劇的なコントラストが印象的であり、英雄的で行進曲風で栄光を讃えているような音楽でありながら、『聖なる思い出』に別れを告げている。兵の指揮官であるオテッロの栄光に満ちた勇ましさが自己破滅に向かっている瞬間です。オテッロは苦痛から逃れるために、本来持つ兵士としての力強さを求め、英雄らしく歌唱します。その瞬間が最後の幸福の絶頂です。その後に復讐の畏、憎悪と殺人が待っているとは知らずに。第2幕フィナーレのオテッロとイヤーゴの二重唱もこれと似た劇的なシーンで、一方は勝利を歌い、一方はオテッロを死へと誘う。オテッロは指揮官の勇ましい顔つきで、妻の裏切りという不快な状況に立ち向かいます。それ



指揮者
グイード・マリア・グイーダ

がまるで喜ばしいことのように、破滅と死への欲望へと変貌するのです」。イヤーゴのハンカチを使った策略にはめられたオテッロは、狂乱の果てに自己破壊に至るようだ。

イヤーゴについては「彼は明敏な悪役であり、彼の欲求不満によって、天才的な悪の力、巨大な闇の力が発揮されます。それはワーグナーのハーゲンやオルトルートにも共通するもので、アリア『悪の信条』では他の人物にはない『死と自滅』という破壊を支配する暴力性が描写されています」と分析する。

OTELLO オテッロ



演出家
パオロ・パニッツァ

嫉妬心の裏に潜む 人間の脆さ

このオペラのテーマである劇的な嫉妬については演出家のパニッツァ氏も注目する。「嫉妬心の裏には、人間の脆さや独占欲が見え隠れしています。愛情とはかけ離れたものです。しかしオテッロは、その上権力欲もあり、他人の出世に対する嫉妬心も強い。それらは残酷なことに、イヤーゴの存在が影響しています。大事にしたいのは、これらの登場人物の中で、デスデーモナの人間像が潰されないことです。『悪』は『純粋さ』より魅力的に感じる瞬間が多々あります。パンデミックの影響で制限が多い中で演出することにな

りますが、これらの事項をテーマに作品作りをしていきたいです」と意気込みを語る。

スペクタクルな合唱と作曲家の妙技

『オテッロ』の冒頭では、海の嵐から人々の祈り、そして勝利の歓呼まで合唱がスペクタクルに大活躍する。第3幕終曲にも合唱が効果的に使われる個所がある。このオペラの聴きどころの一つだが、グイーダ氏は「両方の合唱スペクタクルは、私の持っている全てのエネルギーを傾注して指揮をしたいです。そんな演奏ができる環境であることを祈るばかりです。感染症対策による規則で、合唱団の能力が半減するのは、残念ですから」と力を込める。

さらにグイーダ氏は、この合唱の前後に注目するシーンがあると語る。「第1幕冒頭の海の嵐は、作品の結末を予感させるような不吉な雰囲気が漂う場面。その後の喧嘩で興奮するシーンが愛の二重唱の抒情的な音楽にコントラストを効かせます」。第3幕の嫉妬に狂ったオテッロがデスデーモナを侮辱するシーンも強烈である。「この個所のヴェルディのオテッロの心情分析がとても興味深いです。オテッロは表向き指揮官という厳かな一面をもちながら、実際は姿の見えない『幽霊』に支配された脆い男性として、表向きと外向きとは別人格のように、キャラクターを区別して描いています。これもまた、作曲者の妙技ですね!」

関西二期会との共演は、グイーダ氏、パニッツァ氏ともに3回目。歌手たちやオーケストラとスタッフの水準の高さをよく理解して、今回の共演を楽しみにし、また大いに期待しているのがよくわかる。信頼できる二人のマエストロの力を得て、シェイクスピアの原作からボートが優れた台本を書き、晩年のヴェルディが成熟した最高の音楽をつけた畢竟の大作が、どのような仕上がりになるのか、今から大いに楽しみである。コロナ禍での上演ではあるが、関西二期会とマエストロのタッグで、コロナの憂さを吹き飛ばすような快演になるに違いない。

(横原 千史)

ヴエルディの最高傑作を表現するオペラ歌手たち

自らが息絶える瞬間まで 愛し続けた姿を演じたい



西口 浩二

オテッロ役(27日)

——今回の舞台に向けて、楽しみにされていることを教えてください。

コロナ禍の厳しい状況の中で、関西二期会が総力をあげて取り組んでいるこの作品に、一丸となって向かっていけることが楽しみです。ヨーロッパで活躍されている指揮者のグイード・マリア・グイーダさんや演出家のパオロ・パニッツァさんから、伝統やしきたり、音楽作りや舞台作りを経験できればと思っています。

——『オテッロ』で、好きな場面を教えてください。

一幕終わりの二重唱です。オテッロとデズデーモナがお互いどれほど愛し合っているかが伝わってきます。「この聖なる喜びの時は二度と与えられることはない…アーメン…」という場

面があります。この時がキリスト教に改宗したオテッロの幸せの頂点だったのではないかでしょうか。台詞と感情が一致できるような演奏を心がけます。

——オテッロはデズデーモナのどんなところを愛していたのでしょうか。

彼の苦悩を支え理解してくれたのは、彼女だけであったので、彼にとってはデズデーモナが全てだったと思います。「デズデーモナは不義な女なのか!」と疑うも自分の年齢や容姿の為に彼女を失ってしまったのか、と自分とも戦わなければならず、「どうか私が贈ったハンカチを見せてくれ」と常に思っていたのではないでしょうか。彼女の首に手をかけて殺め、自身も息絶えるその瞬間まで、彼女を愛し続けたオテッロを演じたいです。

——お客様にどんなところを楽しんで頂きたいですか。

ドラマや音楽はもちろん堪能してほしいのですが、例えば入口でパンフレットをもらい、ホワイエで色々な人と再会したり、スタッフ、オーケストラ、出演者のエネルギーを感じ、ホールの臨場感などの全てを楽しんで頂きたいです。

憧れのオテッロの役 やっと夢が実現



小餅谷 哲男

オテッロ役(28日)

——役が決まったときの気持ちを教えてください。

オテッロは歌も大変ですが、演技の内面的なことを表現するのが難しい役ですから、「もし60歳を過ぎて、まだ現役で歌っていたら挑戦したい」と思っていたオペラの役でした。来年その年回りになり、やっと夢が実現するのかなど楽しみであります。

——オテッロの内面性について、どのように表現されたいですか。

オテッロは異人種の将軍でベネチアのために雇われていますが、どこか負い目があり、その屈折したところを表現できたらいいですね。また、だんだんと嫉妬に駆られ、偉大な将軍が奥さ

んを殺さねばならないという狂気をどういう風に演じられるのか。やりがいのある役だと思います。

——お客様に、特に観てほしい場面を教えてください。

オテッロがデズデーモナを殺してしまい、最後の彼の言葉に『bacio』(接吻)と書いてあるのですが、最後の『cio』は音がないんです。たぶん、奥さんの亡骸に近づきながらキスが出来ないで死んでいくのかな。キスをしてしまうと愛が成就したように感じますが、愛は成就せず死んでいくところに感動があるのかなと思います。

——演技力を高めるために、どんなことをされているのですか。

私は絵を描くのが好きで、小さい頃はコンクールでよく入選していたんですよ。絵も音楽も似ているのですが、演技は本当に苦手でした。大学生の頃は、狂言や日本舞踊やバレエを習いましたし、現場では栗山昌良先生にも習いました。演技の手法を教えていただき、その積み重ねで今があると思います。オテッロの役で、今までの蓄積を発揮できるのかなと思って取り組んでいます。